

不妊雄技術

不妊雄技術というのは、放射線を照射して不妊化した雄虫を野外に放ち、その雄によって受精した卵が発育段階の途中で死亡することで子孫が増えることを防止する技術です。野生の雄の数以上の不妊雄を繰り返し放飼し続けると、最終的に害虫は根絶します。殺虫剤散布と違い、目的とする害虫にだけ影響を与える方法なので生態系への影響が少なく環境汚染などの恐れがありませんが、莫大な費用と極めて高度な技術が必要です。

農作物の害虫による被害は世界中で大きな被害をもたらしています。特にアジア地域では、ウリミバエ、ミカンコバエといったミバエ類が広く分布しており、植物防疫上寄生植物となる農業生産物の移動が厳しく規制されています。

日本では、小笠原諸島のミカンコバエや久米島のウリミバエなどに不妊雄技術が適応され、これらの病害虫が根絶したおかげで、それぞれの島から本土に農作物を出荷することが可能になりました。

